



げんきな子 がんばる子 やさしい子

# 園だより

11月号

北区立さくらだこども園  
園長 西澤 尚子

## 言葉での伝え合い

副園長 本橋 房子

5歳児が何人か集まって遊んでいる場に近づくと、様々な言葉のやりとりが聞こえてきます。先日の運動会のリレーの相談場面でもいろいろな言葉が聞こえてきました。リレーで走る順番は子どもたちが相談して決めているのですが、初めの頃は、自分が走りたい順番をそれぞれ言うだけで、同じ順番を走りたい子が出てくると思いがぶつかり、話し合いが進みませんでした。そんなとき、担任は子ども一人一人が自分の思いや考えを出せているかをとらえ、互いのやり取りを見守り、気持ちに折り合いが付けられるように時間を掛けて丁寧に関わりながら共に考えていきました。そして自分たちで決められたことを認めていきました。

何回もリレーをするうちに、相談の内容が変わっていきました。自分の思いだけでなくチームが勝つには誰が何番を走るとよいかということも考えて走りたい順番を言うようになっていきました。また、友達の言うことを聞きながら「Aちゃんは速いから〇番を走ったら勝てると思う」と伝えたり、BちゃんとCちゃんがアンカーを走りたいと言うと、「Bちゃんはまだ走ったことがないから走りたいと思う」「Cちゃんは前にやったから今度でもいい?」「Bちゃんも速いから」「Cちゃんありがとう」と仲間の状況や気持ちも考えながら伝えたりしていました。それらの言葉には「チームとしてみんなで協力して勝ちたい」という思いが感じられました。時には相談が数十分にも及ぶことがありましたが、「自分たちで決めた」ということが自信や責任感にもつながっていきました。

言葉で思いを伝え合い自分たちで決めていくことは、小さな頃からの経験の積み重ねの上に成り立っています。子どもたちは心が動くような出来事があると「見て!」「聞いて!」と誰かに話したくなります。自分が言ったことを相手が受け止めてくれると嬉しくなり、もっと話したくなります。困ったことや嫌なことはなかなか話したがない子もいますが、どんな言葉で言うとよいのか知らせ、言えたことを認めていくと、伝えると受け止めてもらえるのだと思うようになっていきます。幼児期は、体と心を思い切り動かしながら、自分の体験から生まれる言葉を大切に育む時期だと言われます。言葉で自分を表し、相手に受け入れてもらう体験や、互いに伝え合いながら理解を深める体験、そして自分たちで物事を決める体験ができるようにしていきたいと考えます。

11月は、こども園公開があります。園での子どもたちのつぶやきや友達とのやり取りに耳を傾けてみてください。園と家庭とで子どもたちの言葉を大切に受け止め、伝える力を育てていきましょう。

### —今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
  - ・遊びや生活の中で、自分でできることが増えてきたことに喜びを感じ、すすんでしようとする。
  - ・身近な素材を使って見立てたり、自分なりにイメージして作ったりすることを楽しむ。
  - ・保育者や友達と遊ぶ中で、自分の気持ちを言葉や動きで表そうとする。
- 〈4歳児〉
  - ・気の合う友達と遊ぶ中で、自分なりの思いやイメージを言葉や動きで表し、友達にも思いがあることに気付く。
  - ・お話しごっこや楽器遊びなど学級のみんなでする活動に取り組む中で、自分なりの動きや表現を楽しむ。
  - ・秋の自然物や栽培物に触れながら、季節の移り変わりに気付き、遊びに取り入れて遊ぶことを楽しむ。
- 〈5歳児〉
  - ・劇遊びや楽器遊びをする中で、友達と思いや考えを出し合ったり、伸び伸びと表現したりすることを楽しむ。
  - ・共通の目的に向かって、役割を意識しながら自分の力を発揮し、友達と一緒にやり遂げる満足感を味わう。
  - ・季節の変化を感じながら秋の自然に興味や関心をもち、自分から関わろうとする。

